

令和3年度第1学期始業式式辞（放送）

おはようございます。令和3年度のスタートです。穎明館生の皆さん、新鮮でやる気に満ちた姿勢で今、新しい教室の椅子に座っていることと思います。まずは新4年生、第37期生の皆さん、穎明館高等学校への進学、おめでとうございます。高校生として、進路意識を高めて充実した毎日を送ってください。次に昨日、穎明館第40期生として新たに184名の中学新入生を迎えました。上級生の皆さん、校歌にある「穎明館こそわが誇り」の通り、誇り高き穎明館生として新入生を迎えたことをともに喜び、優しく頼もしい先輩として成長していきましょう。新入生の皆さん、よき先輩を見習ってください。

さて、今日は今年度の学校改革「EMK未来プロジェクト」の柱の一つである「EMK探究」について、SDGsとの関連で話したいと思います。

皆さん、SDGsを知っていますか。授業などで触れられたり、最近ではマスコミでもよく取り上げられたりしているので、知っている人も多いかと思います。SDGs（Sustainable Development Goals）は、「持続可能な開発目標」といい、2015年9月に国連で採択された、貧困のない、持続可能な世界を次世代に受け継ぐことを目指した世界規模の目標のことです。2030年までの達成を目指し、17ゴール・169ターゲットを踏まえつつ、それぞれの国の政府が国家目標を定め、国家戦略等に反映していくことを想定しています。その理念は「誰一人取り残さない」です。

17ゴール・169ターゲットをよく見ると、皆さん、皆さんの子どもや孫、ひ孫の世代が安心して住むことのできる世界を、どうやってつくっていくのか、そのために私たちが今取り組むべきことは何か、について書かれていることに気が付きます。では、現在の社会は持続可能でしょうか。人類が直面している課題、コロナ感染症の問題はもちろんですが、その他、思いっただけでも飢餓、貧困、人口爆発、異常気象、資源枯渇、森林の減少、格差、児童労働、人権侵害、テロ、紛争等々、さまざまな脅威にさらされています。この社会をこのまま未来に引き継げるでしょうか。例えば日本人と同じ生活を世界中の人がしたとすると、地球は2.9個必要だと言われています。今の世界の人の生活を支えるには地球1.7個

分が必要だそうです。我々の生活は、地球が生産・吸収できる能力を超えてしまっているわけです。今、日本で、世界で、環境、経済、社会の持続可能性が問われています。

こういった現状認識と対策を目に見えるように示したものが、SDGs となります。すでに採択から5年以上が経って、企業や自治体をはじめ、学校での取り組みもいろいろと見られるようになりました。地域の実情に沿った形で課題、テーマの設定は様々です。宮城県のある学校では防災教育から、奈良県のある学校では世界遺産教育から、国際コースのある学校では国際理解教育から、テーマを設定しています。また海に近い、ある学校では、プラスチックゴミなどの海洋汚染に着目してテーマを設定しています。もちろん学校としてのテーマを決めずに、子どもたちが自ら課題を見出して、自分で考え、行動する学びを展開しているケースも見られます。ホームページには、中学・高校を問わず、小学校から大学までたくさんの事例が紹介されています。ぜひ、同世代の学びを見てください。では、何のためにSDGsを学び、実践するのか。その意義はもちろん、一人一人が「持続可能な社会の創り手」になるためです。

SDGsに限らず、課題を設定する、その解決を考えて情報を収集する、その情報を整理・分析する、まとめて判断し表現する、という一連のサイクルを学校では探究学習と言います。探究学習は、中学校で今年から新しくなる学習指導要領の柱の一つに位置づけられています。高校は正式には来年度からですが、すでにその探究重視の傾向は、「大学入学共通テスト」にも表れてきています。当然、穎明館でも「EMK 探究」として取り組んでいきます。教科学習や今までの勉強は、正解のある問題が与えられて、それを考えて解くということが中心でした。もちろん、与えられた問題について筋道立ててよく考え、正解に導くという力は、これからも大事です。ただ、SDGsをはじめ、探究の課題には正解はありません。いや、正解は無数にあるといったほうがいいでしょうか。時代は、社会は、皆さんに正解のない課題の探究を求めています。SDGsは、その課題意識を育てるための一つの指標と思われれます。もちろん、教科学習の中から、また学校行事や毎日の生活の中から、皆さんそれぞれの課題意識を持つ、育てることもできます。日頃から「探究」を意識していきましょう。穎明館の教育目標は、「国際社会に羽ばたく真のリーダーの育成」です。これからは皆さんには社会のリーダーになるにふさわしい、積極的で多様な学び、とくに穎明館生ならではの「EMK

探究」学習を期待しています。

また、今年度の学校改革「EMK 未来プロジェクト」では、ICT 教育をさらに充実させていく考えです。昨年度はコロナ対応で急遽、オンライン学習をスタートさせました。今年度からは学年進行でタブレットを使っでの学習も展開させていきます。すべては豊かな教育活動によって、皆さん穎明館生の学力形成や人格形成に資することを考えています。新しいことを始めるには、大変なエネルギーが必要ですが、皆さんとともに With コロナの時代にふさわしいチャレンジをしていくつもりです。また、コロナ対応ということでは、まだまだ不安定な日常は続きます。「学びを止めない、感染しない、させない。誰かの、何かのせいにならない」——油断することなく、感染防止対策、健康管理にしっかりと努めていきましょう。

式辞の結びは、創立者堀越克明先生の定めた校訓とモットーです。

新 6 年生、35 期生の皆さん、いよいよ受験学年になりました。皆さんは受験生として、部活動やスポーツで言えば全員がレギュラー、物語で言えば全員が主人公です。継続は力なり——可能性に挑戦する 1 年にしていきましょう。

穎明館生の皆さん、今年度も校訓通り常に目標、意識を高くもって努力してください。また With コロナの時代、モットーでは国際人ではなく、地球人たれと呼びかけていることに注意してください。読み上げます。

【校訓】

「 人生は何ごとに依らず その目標は高く設定するべきである
その推進には 高い知性と理性を必要とする 」

【モットー】

「 仁智は無窮 穎才を研きよき地球人たれ 」

以上、令和 3 年度穎明館中学高等学校第 1 学期始業式の式辞といたします。